

「未来を創る人材への投資」分科会 ～孤独・孤立の状態にある若者の居場所づくり検討部会～

構成メンバー(134者)

【民間企業、NPO等(71者)】

特定非営利活動法人さいたまユースサポートネット、NPO法人フードバンクネット西埼玉、
特定非営利活動法人こどもの居場所づくり in かわぐち、認定NPO法人ピッコラーレ、
不登校の子どもを持つ親の会 ムーミンの会、一般社団法人 埼玉県子ども食堂ネットワーク、
特定非営利活動法人れでいばど、株式会社エース、幸せのクローバー会、コスモナレシピ、
特定非営利活動法人オハナプロジェクト、生活協同組合パルシステム埼玉、
特定非営利活動法人新しい住まい方研究所、NPO法人埼玉フードパントリーネットワーク、
特定非営利活動法人親子ふれあい教育研究所、川越子ども応援パントリー、公平病院、
株式会社 埼玉りそな銀行、埼玉縣信用金庫、NPO法人carenation、
認定NPO法人Learning for All、殿山共同農場きずな、株式会社武蔵野銀行



発表者：県福祉政策課(事務局)、一般社団法人埼玉県子ども食堂ネットワーク

<1>



SDGs 未来都市
埼玉県

「未来を創る人材への投資」分科会 ～孤独・孤立の状態にある若者の居場所づくり検討部会～

構成メンバー(134者)

【民間企業、NPO等(71者)】

志木介護する人を支える会、NPO法人このまちで暮らす会、日本赤十字社埼玉県支部、
NPO法人子育て応援隊むぎぐみ、公益社団法人埼玉県社会福祉士会、
認定特定非営利活動法人さいたまNPOセンター、NPO法人新座子育てネットワーク、
NPO法人クラブしっきーず、特定非営利活動法人 埼玉県就労支援事業者機構、社会福祉法人彩凜会、
社会福祉法人 敬愛会、公益社団法人生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会埼玉県協会、
和が家カンパニーズ株式会社、特定非営利活動法人志木市精神保健福祉をすすめる会、
NPO法人)マインドフルネス総合研究所、NPO法人ふうせん、NPO法人みのり、一般社団法人にじーず、
社会福祉法人じりつ、NPO法人非行克服支援センター、NPO法人心の子育て支援ハッピーマザー、
認定NPO法人きらりびとみやしろ、一般社団法人コンパスナビ、社会福祉法人名栗園

「未来を創る人材への投資」分科会 ～孤独・孤立の状態にある若者の居場所づくり検討部会～

構成メンバー(134者)

【民間企業、NPO等(71者)】

特定営利活動法人 十人十色、新座自然宿、一般社団法人日本ショーファー協会、
株式会社tree 放課後等デイサービス ロケットクラブ、
社会福祉法人未広会 特別養護老人ホーム第2春香苑、フレンドシップ上戸田共同事業体、
一般社団法人埼玉県精神保健福祉士協会、株式会社ディーアイケイ、株式会社オザキ運送、
労働者協同組合 ワークスコープ・センター事業団 埼玉事業本部、医療生協さいたま生活協同組合、
ぱらっとほーむみよし不登校ネットワーク、社会福祉法人邑元会 特別養護老人ホームあかつき、
一般社団法人埼玉県歯科医師会、認定NPO法人森のECHICA、
ぱらっとほーむ～さいたま不登校ネットワーク～、合同会社アーキサンド、
特定非営利活動法人たねの会、NPO法人トラストコーチング、一般社団法人ペアチル、くきCAP

「未来を創る人材への投資」分科会 ～孤独・孤立の状態にある若者の居場所づくり検討部会～

構成メンバー(134者)

【民間企業、NPO等(71者)】

合同会社Spica、社会福祉法人恩賜財団済生会支部 埼玉県済生会、特定非営利活動法人エンリッチ

【行政機関(43者)】

さいたま市、熊谷市、川口市、行田市、秩父市、所沢市、飯能市、春日部市、狭山市、羽生市、鴻巣市、深谷市、上尾市、草加市、越谷市、戸田市、入間市、朝霞市、志木市、桶川市、久喜市、北本市、八潮市、富士見市、蓮田市、鶴ヶ島市、日高市、吉川市、ふじみ野市、白岡市、伊奈町、越生町、嵐山町、川島町、吉見町、鳩山町、長瀬町、小鹿野町、東秩父村、美里町、神川町、上里町、宮代町

「未来を創る人材への投資」分科会 ～孤独・孤立の状態にある若者の居場所づくり検討部会～

構成メンバー(134者)

【社会福祉協議会(20者)】

埼玉県社会福祉協議会、川越市社会福祉協議会、川口市社会福祉協議会、秩父市社会福祉協議会、所沢市社会福祉協議会、春日部市社会福祉協議会、狭山市社会福祉協議会、鴻巣市社会福祉協議会、上尾市社会福祉協議会、越谷市社会福祉協議会、蕨市社会福祉協議会、戸田市社会福祉協議会、志木市社会福祉協議会、桶川市社会福祉協議会、北本市社会福祉協議会、日高市社会福祉協議会、東秩父村社会福祉協議会、上里町社会福祉協議会、宮代町社会福祉協議会、杉戸町社会福祉協議会

検討部会における背景・課題等について

1. 背景

- 人々のつながりが希薄化し、孤独・孤立を感じやすくなっている。
- 新型コロナウイルス感染拡大により、孤独・孤立の問題が顕在化・深刻化した。
- 埼玉県人々のつながりに関する基礎調査では、特に20代～40代の孤独感が高い。
- 孤独感の高い20代～40代では、「寂しい際の地域の交流場所の利用意向」について、「利用したい」とした割合が低い。

2. 課題

- 孤独感が高い一方、「地域での交流場所」の利用意向が低い若年層が利用しやすい「居場所」の在り方を検討し、人や社会とつながることで、孤独・孤立の解消と予防を図る必要がある。

検討部会における背景・課題等について

2. 検討部会の目的

- 若者の居場所づくり
 - 地域における多様な居場所づくり
 - 新技術を活用した居場所づくり（メタバース空間 等）
- 構成メンバーの若者支援の取組支援
 - 研修や地域別ワークショップの開催
 - 先進的取組、好事例の共有
 - 各種支援、助成等の情報提供

検討部会で実施した事業・構成メンバーによる取組について

1. 検討部会で実施した事業

「若者のつながり・居場所づくり」についての意見交換会

2. 構成メンバーによる取組

「～アートによる社会包摂を通じた「福祉を超えた」協働モデルの構築～」

（一般社団法人 埼玉県子ども食堂ネットワーク）

1. 「若者のつながり・居場所づくり」についての意見交換会

○メンバーからの意見・アイデア等(任意)

- 居場所づくりで行政にできること、NPO・企業にできることは何か
 - 民間組織は若者と深く関わるができる一方、資金や情報が不足している。
 - 行政は急な課題への対応が困難であり、具体的な事案に対する柔軟性が課題。
 - 行政には地域をつなげる役割が期待される。
- 若者の居場所の必要性、若者が抱える課題
 - 若者が抱える問題は多様であるため、多様な居場所が必要。
 - 心地よい居場所が心理的な安定感を提供し、将来的な社会参加にもつながる。
- 若者にたどり着くまでの手段は？（広報）
 - SNSやインターネットを活用する手段が効果的。
 - 窓口対応におけるアウトリーチでは若者に届かないため、支援者（民生委員など）と若者が協力し合い、双方の視点を踏まえたアプローチを検討すべき。

1 概要

NPO等活動を熟知した中間支援組織による孤独・孤立対策に取り組むNPO等の運営能力の向上や活動基盤整備のための支援モデルを構築し、全国展開を図る。

中間支援組織は、地域で孤独・孤立対策を行う中小規模のNPO等への非資金的支援を実施(注)し、取組成果や支援ノウハウ、課題等を取りまとめ、内閣官房に報告する。

(注) 一つの都道府県域を超えて活動する事業が対象

2 公募対象者

中間支援組織(孤独・孤立対策に取り組むNPO等を対象に、運営支援や人材育成、ネットワーク構築等の活動を行う非営利団体)

3 予算額

1.2億円(令和5年度予算)

(1団体当たり委託契約上限額:1,000万円)

4 公募状況

期間:令和5年5月23日~6月13日

申請団体数:8団体

※2次公募を実施予定。

(調査フロー)

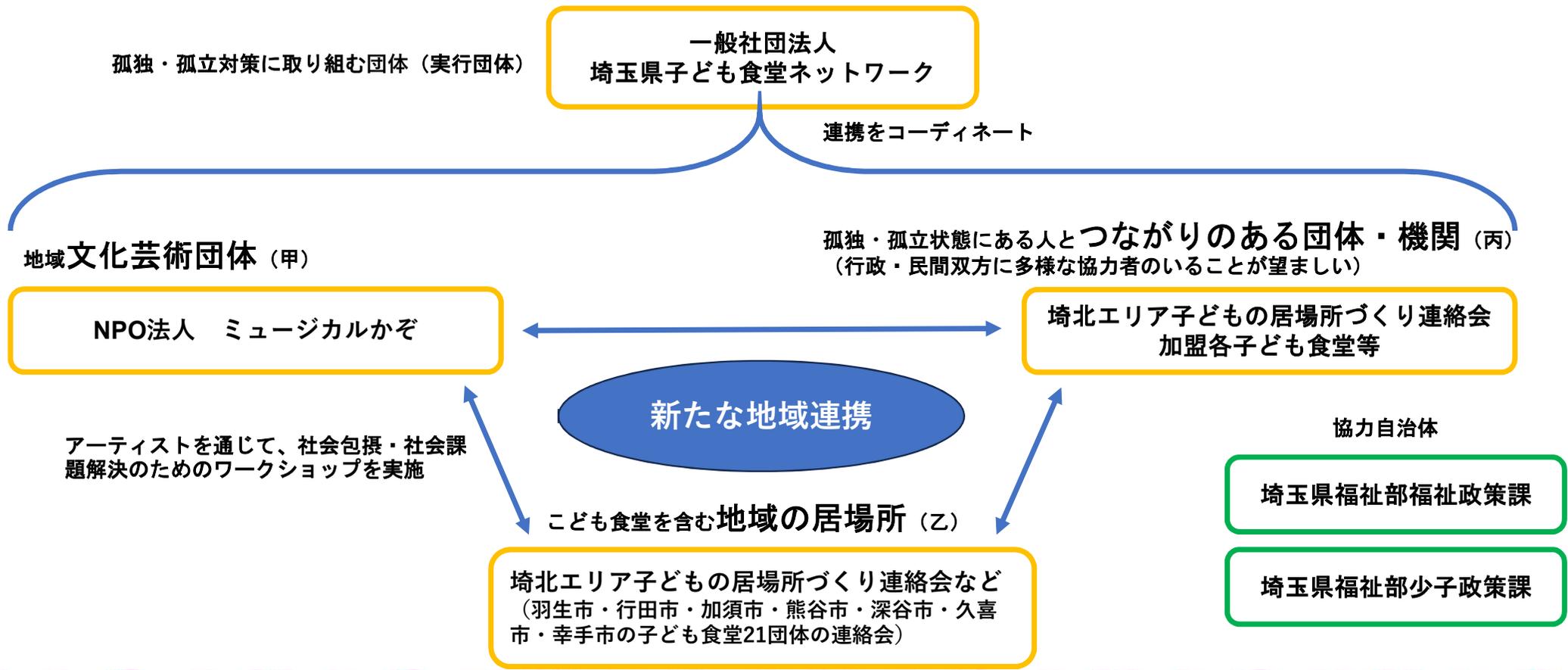


認定NPO法人
全国子ども食堂支援
センター むすびえ

一般社団法人
埼玉県子ども食堂
ネットワーク 等

令和5年7月11日内閣官房「孤独・孤立対策活動基盤整備モデル調査の取組団体の決定について」

2. ～アートによる社会包摂を通じた「福祉を超えた」協働モデルの構築～



孤独・孤立の状態にある若者の居場所づくり検討部会



2. ～アートによる社会包摂を通じた「福祉を超えた」協働モデルの構築～



・ CHAPTER 1 見てみよう！ ミュージカルかぞによる公演（短縮版）を参加者が観劇する
ミュージカルとはどんなものを体験する



孤独・孤立の状態にある若者の居場所づくり検討部会
<12>



2. ～アートによる社会包摂を通じた「福祉を超えた」協働モデルの構築～



・CHAPTER 2 やってみよう！

実際に体を動かすワークショップ。
立ち方・呼吸法・声の出し方などを学んでいき最終的にミュージカルのワンシーンをやってみる



孤独・孤立の状態にある若者の居場所づくり検討部会

<13>



2. ～アートによる社会包摂を通じた「福祉を超えた」協働モデルの構築～



・CHAPTER 3 一緒に食べよう！

子ども食堂運営団体が食事を準備し、参加者全員でお昼ご飯を食べます。
一緒に食べると美味しいね！楽しいね！



孤独・孤立の状態にある若者の居場所づくり検討部会

<14>



2. ～アートによる社会包摂を通じた「福祉を超えた」協働モデルの構築～

【参加者の感想】

アンケートは約50枚回収、幅広い年齢層の参加があり、ワークショップも食事も概ね好評であった。

・おいしかったよ（10代未満）

・いろいろな方と話すことが出来てとても楽しかったです。また、ワークショップで初めましての人ともっと沢山話したいと思いました。子ども食堂も参加したいと思いました！！（10代）

・表現することはとても楽しかったし、みなさんととても暖かく優しく温かい気持ちになりました（10代）

・親子で参加、子供たちの普段とは違う会話や表情をお互いに見れて心が満たされました（40代）

・見るだけでなく先生にミュージカルの表現方法を教えてもらって楽しかった（50代）

・はじめて会ったばかりの人たちと息のあった歌とダンスができ、ピッタリ合ってとても楽しかった（60代）

2. ～アートによる社会包摂を通じた「福祉を超えた」協働モデルの構築～

まとめ

新たな地域団体の連携で社会課題を解決していく

- ①人と人との繋がりをつくる → ・孤独・孤立の解消
- ②居場所づくり → ・プラットフォーム（共通の土台）の整備
- ③新たな枠組みでの連携 → ・共通理解を深めた上で、シナジー効果を生み出す可能性を探る
- ④福祉を超えた協働 → ・多くのセクションが関わることで社会全体で包摂していく雰囲気醸成していく
- ⑤誰も取り残さない社会の実現 → ・SDGsの基本理念